



令和4年度 フェムテック等サポートサービス実証事業 成果報告資料

株式会社Kids Public

アジェンダ

- 1.事業計画（事業目的と実施事項）
- 2.事業計画に基づき実施したこと
- 3.本事業の成果と課題
- 4.今後の事業展開

事業計画（事業目的と実施事項）

小児科オンライン

産婦人科オンライン

新入社員向け

「女性特有の健康課題に関する eラーニングプログラム」の開発と検証

健康的に働いていく上で、知っておくべき健康情報を
スマホから気軽にどこでも学べるように

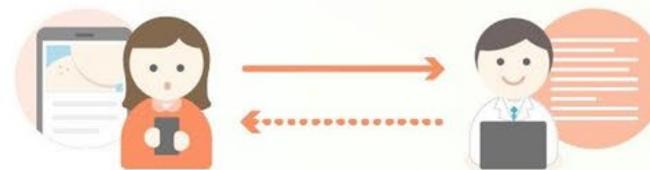


eラーニングツールの開発・提供

- 月経随伴症状、不妊治療、女性特有のがんなど幅広くカバー
- 個別の回答結果に応じて自分に必要な医療・健康情報を取得
- 複数回実施することで知識の定着と行動変容の期待を
- 男性も学ぶことで職場における相互理解の促進に

オンライン相談の自由利用

- 疑問が湧いたら、オンラインで気軽に産婦人科医へ相談可能
- 直接会話できる予約形式 & 24時間送れるメッセージ形式



事業計画に基づき実施したこと

【eラーニングツールの開発】

- エボラニ株式会社へ開発を委託
- 女性社員用/男性社員用、LINE版/ブラウザ版を用意
- eラーニングツール1回目と2回目の設問・解答内容を一部改変

実施事項			2022年						2023年			
			6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 女性の健康課題に関するeラーニングツールの開発・施行	1.1 本ツールの作成	本ツールの開発		■				■				
		コンテンツ作成	■						■	ブラッシュアップ		
	1.2 本ツールの実施	参加団体調整・確定	■			■						
		1回目				■		■				
		2回目									■	
	1.3 効果測定	事前アンケート			■	■						
		事後アンケート								■	■	
		データ分析									■	3/10
		報告書作成・提出										■
	2. 産婦人科オンライン・小児科オンラインを利用した遠隔医療相談					■						■

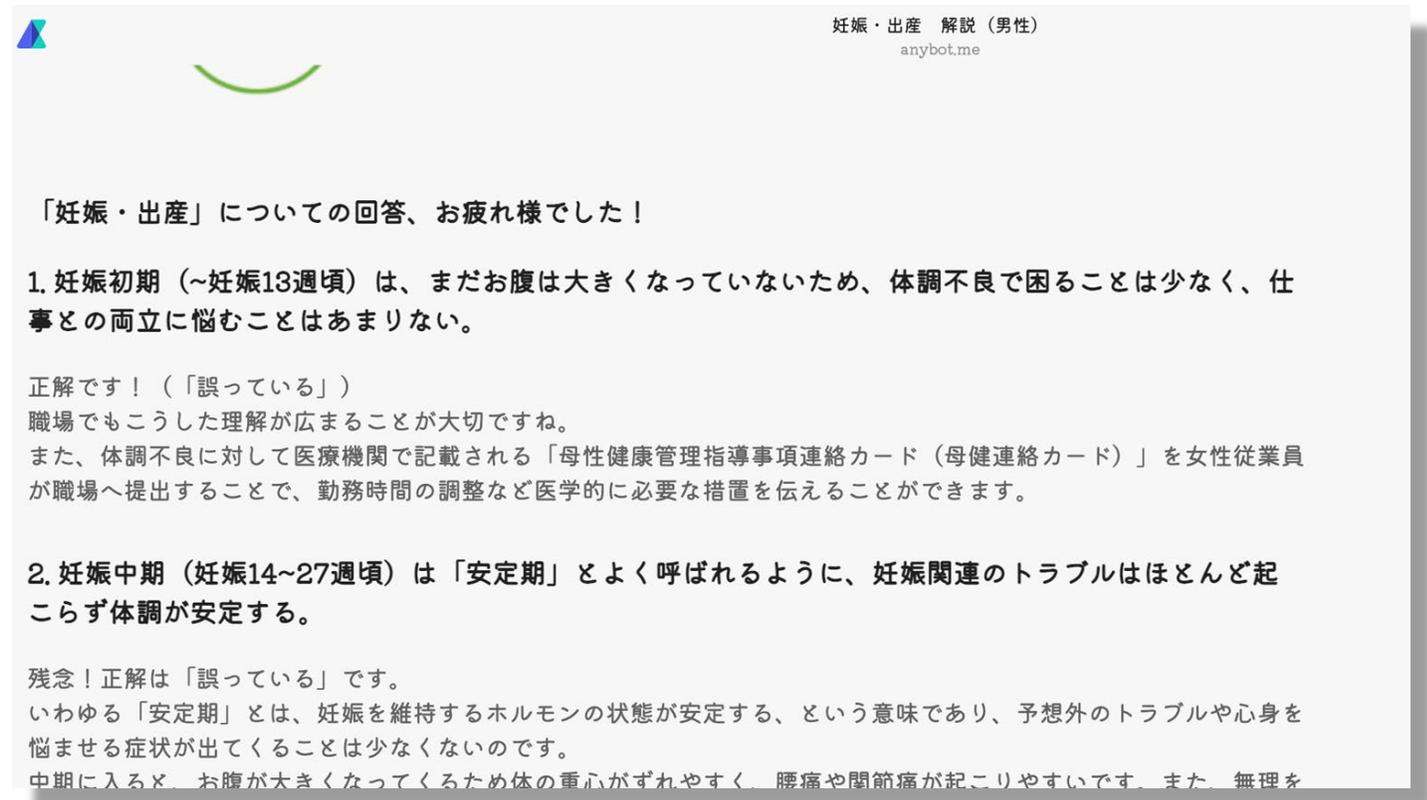
事業計画に基づき実施したこと

【eラーニングツールの開発】



女性社員用（月経関連）
LINE版の設問画面（デモ）

男性社員用（妊娠・出産） ブラウザ版の回答画面（デモ）



事業計画に基づき実施したこと

【参加企業の募集とeラーニングツールの実施】

- 合計24社へ提案→参加決定は4社
- 参加人数：47名（男性16名、女性31名）
- eラーニング1回目(~1月末)、eラーニング2回目(2月1日~2月15日)

実施事項			2022年						2023年			
			6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 女性の健康課題に関するeラーニングツールの開発・施行	1.1 本ツールの作成	本ツールの開発		→				→				
		コンテンツ作成		→					→			
	1.2 本ツールの実施	参加団体調整・確定	→			→						
		1回目				→		→				
		2回目								→		
	1.3 効果測定	事前アンケート			→		→					
		事後アンケート							→	→		
		データ分析								→	→	3/10
		報告書作成・提出									→	→
	2. 産婦人科オンライン・小児科オンラインを利用した遠隔医療相談					→						→

事業計画に基づき実施したこと

【事前・事後アンケートの作成・実施】

- 基本属性、共通項目に加えて独自項目15～18問
- 女性社員用/男性社員用をそれぞれ用意
- 事後アンケート回収→合計25名（回収率53.2%）

実施事項			2022年						2023年			
			6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 女性の健康課題に関するeラーニングツールの開発・施行	1.1 本ツールの作成	本ツールの開発		▶				▶				
		コンテンツ作成	▶						▶			
	1.2 本ツールの実施	参加団体調整・確定	▶			▶						
		1回目				▶		▶				
		2回目									▶	
	1.3 効果測定	事前アンケート			▶	▶						
		事後アンケート								▶	▶	
		データ分析								▶		3/10
		報告書作成・提出									▶	
	2. 産婦人科オンライン・小児科オンラインを利用した遠隔医療相談						▶					▶

本事業の成果

【参加者】

- ・ 主に、企業に勤める社会人歴5年目までの男女社員を募集
(←計画当初の「社会人歴3年目まで」から引き上げ)
- ・ 計画値：参加者数40名 (←計画当初の300名から引き下げ)
- ・ オンライン相談の利用者：25名のうち2名 (いずれも女性)

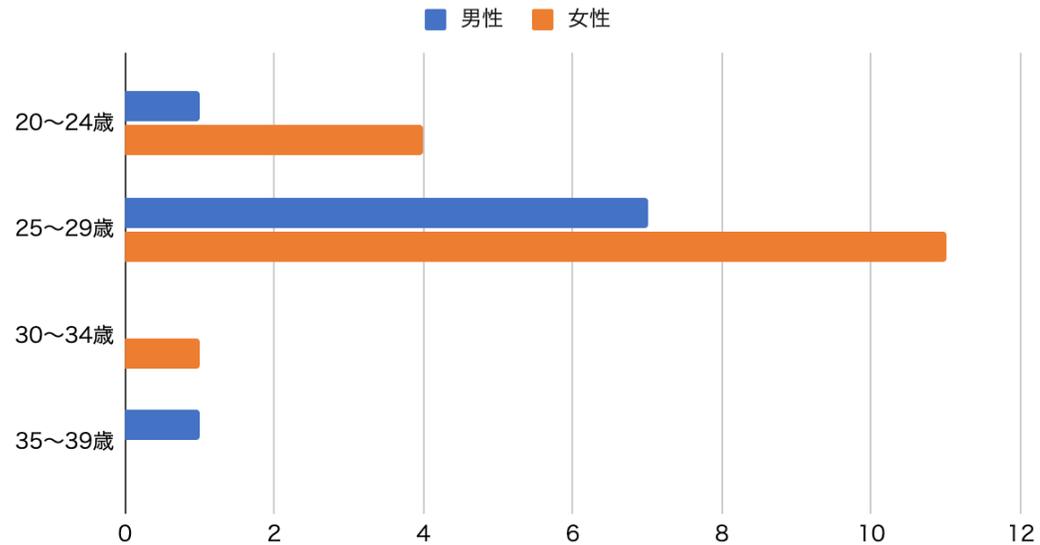
	男性	女性	合計
事前アンケート回答者	16名	31名	47名
うち、eラーニングプログラム希望者	15名	30名	45名
eラーニング計1回施行者	4名	6名	10名
eラーニング計2回施行者	9名	14名	23名
事後アンケート回答者	9名	16名	25名

最終的な
分析対象者

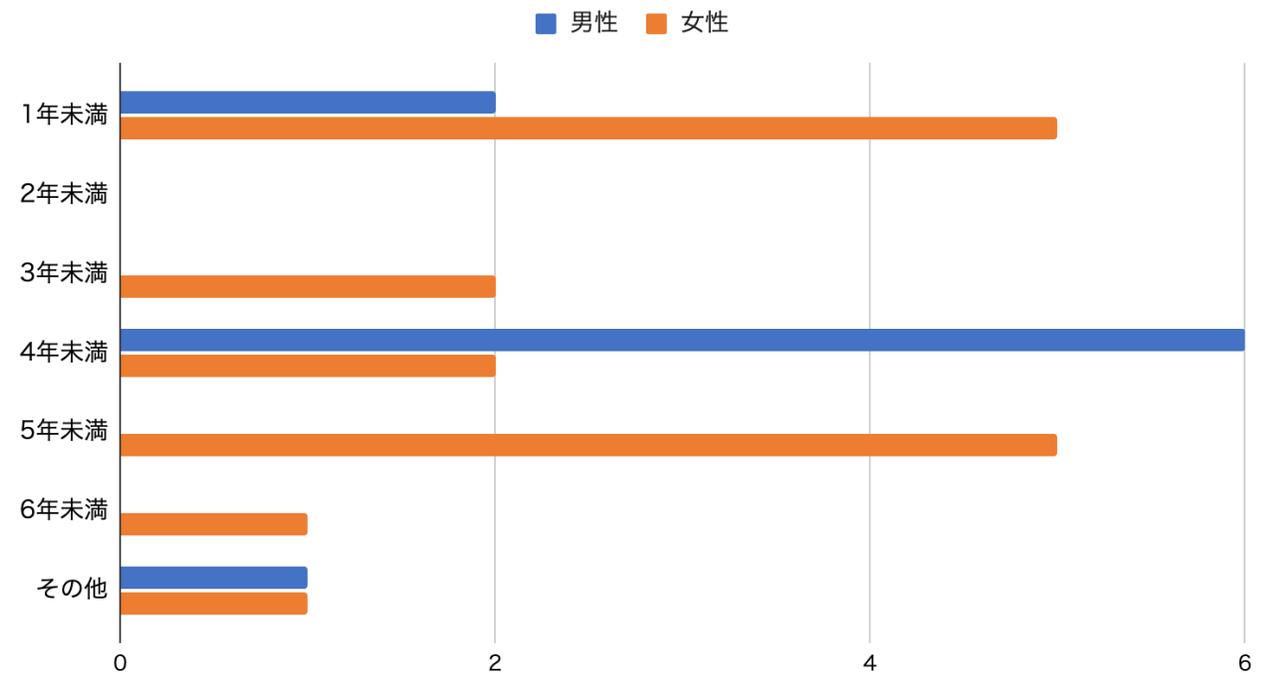
本事業の成果 事前アンケートより

【参加者背景】

年齢



卒業後からの勤続年数

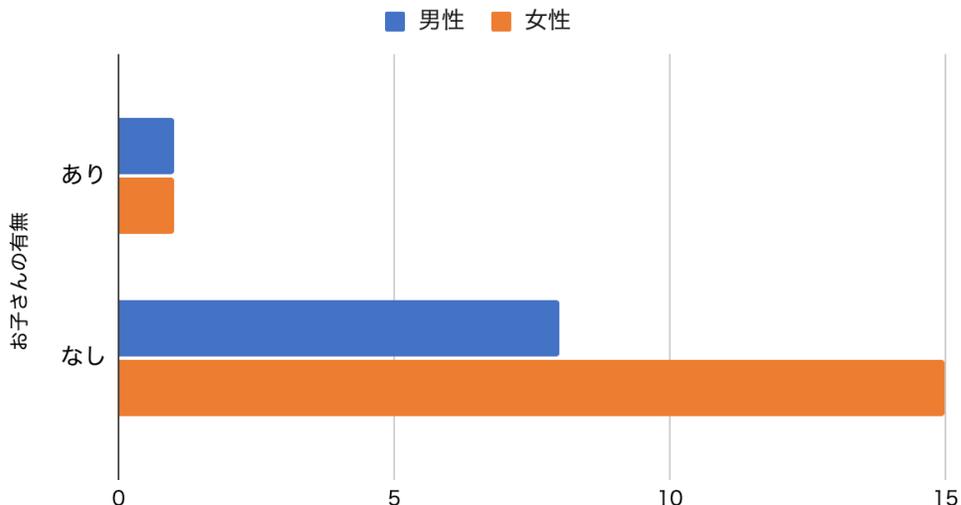


参加者のほとんどが20代、勤続年数5年未満

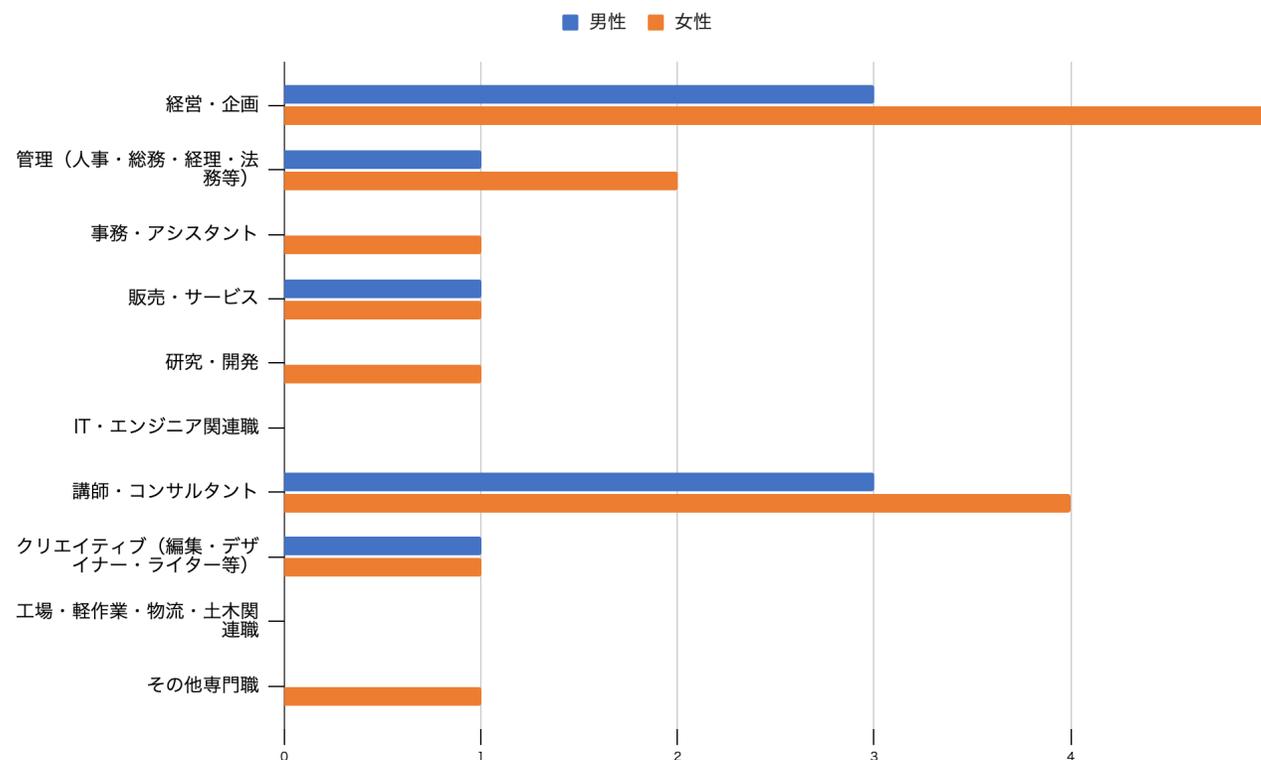
本事業の成果 事前アンケートより

【参加者背景】

子どもの有無



現在の職種



- ・ 子どもがいない参加者がほとんど
- ・ 様々な職種

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

【共通指標（女性参加者のみ）】

共通指標①	有効回答数:		16人
		Before	After
絶対的プレゼンティズム	平均値	43.13	53.13
	中央値	45.00	55.00
	改善した人数とその割合	8人 (50%)	
相対的プレゼンティズム	平均値	0.68	0.80
	中央値	0.66	0.80
	改善した人数とその割合	9人 (56.3%)	

- ・ 絶対的プレゼンティズムが50%で改善（全体の平均値・中央値も）
- ・ 相対的プレゼンティズムが56%で改善（全体の平均値・中央値も）

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

【共通指標（女性参加者のみ）】

共通指標②		有効回答数: 16人	
		Before	After
健康課題がキャリアに及ぼす影響度の認知	平均値	3.75	4.06
	中央値	4.00	4.00
	改善した人数とその割合	6人 (37.5%)	
解決策/緩和策の認知	平均値	3.94	3.75
	中央値	4.00	4.00
	改善した人数とその割合	5人 (31.3%)	
解決策/緩和策の実施	平均値	1.63	1.63
	中央値	1.00	2.00
	改善した人数とその割合	5人 (31.3%)	
解決策/緩和策のアウトカム	平均値	0.38	0.56
	中央値	0.00	0.50
	改善した人数とその割合	5人 (31.3%)	
他者・組織への相談先の認知	平均値	4.88	4.63
	中央値	5.00	5.00
	改善した人数とその割合	4人 (25%)	
他者・組織への相談の実施	平均値	0.50	0.69
	中央値	0.00	0.00
	改善した人数とその割合	4人 (25%)	
他者・組織への相談のアウトカム	平均値	0.25	0.38
	中央値	0.00	0.00
	改善した人数とその割合	3人 (18.8%)	

- ・ 7つ全ての指標で改善した参加者が一定割合存在した
- ・ 特に「健康課題がキャリアに及ぼす影響度の認知」の改善が相対的に大きかった

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

【共通指標（女性参加者のみ）】

共通指標①

有効回答数: 4人 有効回答数: 12人

		1回実施(4名)		2回実施(12名)	
		Before	After	Before	After
絶対的プレゼンティズム	平均値	27.50	37.50	48.33	58.33
	中央値	20.00	40.00	50.00	60.00
	改善した人数とその割合	2人(50%)		6人(50%)	
相対的プレゼンティズム	平均値	0.42	0.66	0.76	0.85
	中央値	0.37	0.61	0.85	0.87
	改善した人数とその割合	2人(50%)		7人(58.3%)	

* eラーニング実施回数で比較（1回のみ実施[4名] vs 2回とも実施[12名]）

- ・ 両群ともにプレゼンティズムの改善が認められた（平均値）
- ・ 改善した人の割合は2回実施者の方が高かった

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

【共通指標（女性参加者のみ）】

共通指標②		有効回答数: 4人		有効回答数: 12人	
		1回実施 (4名)		2回実施 (12名)	
		Before	After	Before	After
健康課題がキャリアに及ぼす影響度の認知	平均値	4.50	5.50	3.50	3.58
	中央値	4.50	5.50	4.00	3.50
	改善した人数とその割合	1人 (25%)		5人 (41.7%)	
解決策/緩和策の認知	平均値	4.50	3.75	3.75	3.75
	中央値	4.00	3.00	4.00	4.00
	改善した人数とその割合	2人 (50%)		3人 (25%)	
解決策/緩和策の実施	平均値	2.50	1.25	1.33	1.75
	中央値	2.50	1.00	1.00	2.00
	改善した人数とその割合	0人 (0%)		5人 (41.7%)	
解決策/緩和策のアウトカム	平均値	0.75	0.75	0.25	0.50
	中央値	1.00	1.00	0.00	0.00
	改善した人数とその割合	0人 (0%)		5人 (41.7%)	
他者・組織への相談先の認知	平均値	4.50	4.75	5.00	4.58
	中央値	4.50	5.00	5.00	5.00
	改善した人数とその割合	2人 (50%)		2人 (16.7%)	
他者・組織への相談の実施	平均値	0.25	0.25	0.58	0.83
	中央値	0.00	0.00	0.00	0.50
	改善した人数とその割合	0人 (0%)		4人 (33.3%)	
他者・組織への相談のアウトカム	平均値	0.50	0.25	0.17	0.42
	中央値	0.00	0.00	0.00	0.00
	改善した人数とその割合	0人 (0%)		3人 (25%)	

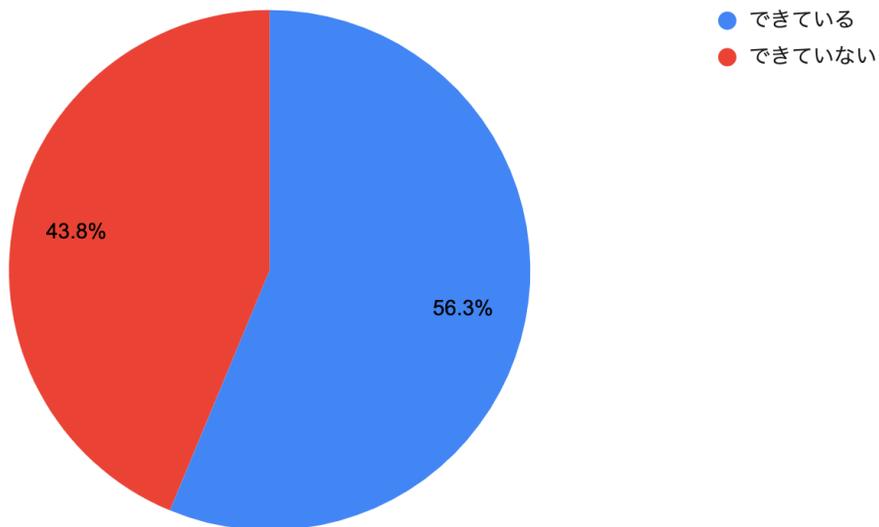
* eラーニング実施回数で比較 (1回のみ実施[4名] vs 2回とも実施[12名])

- ・ 各群で、改善が比較的大きい項目が異なっていた
- ・ 2回実施者では「改善した人の割合」が0%の項目がなかった

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

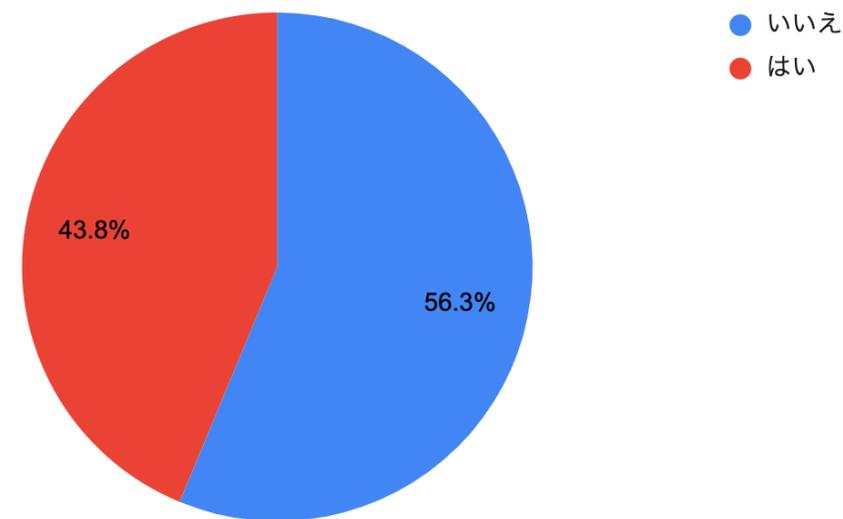
【その他の成果指標（女性：16名） 受診行動の変化】

月経不順や不正出血など婦人科系の症状や、尿漏れや膀胱炎など泌尿器系の症状を感じた時は、適切に産婦人科を受診できていると思いますか？



事前調査時に比べて「できている」が大幅に増加
(18.8%→56.3%)

月経前や月経中の症状に関して、医療機関を受診したことはありますか

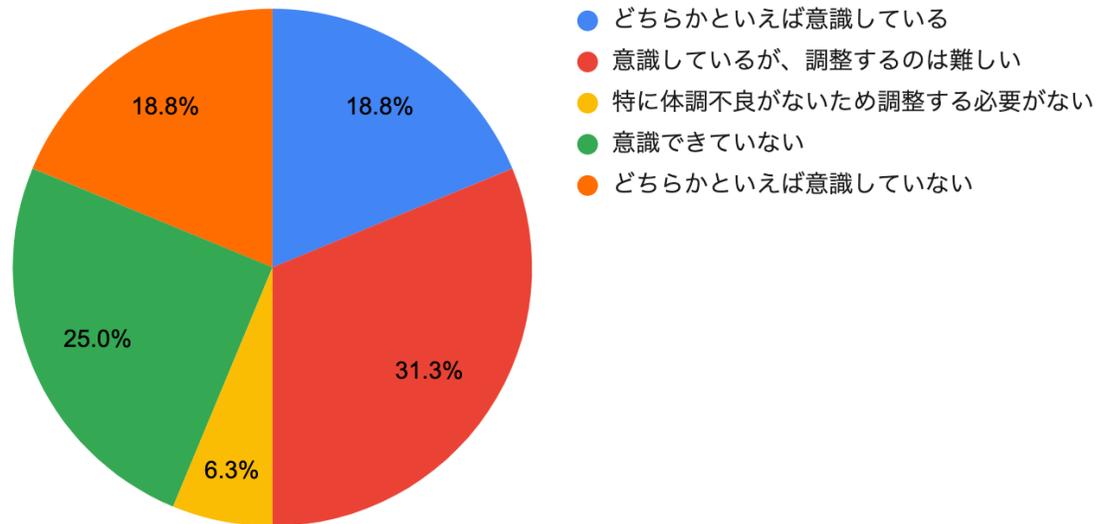


事前調査時に比べて「はい」が増加
(37.5%→43.8%)

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

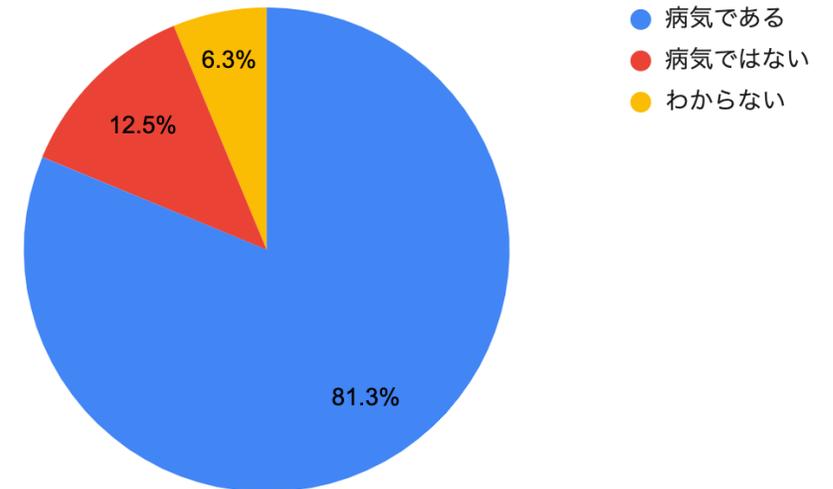
【その他の成果指標（女性：16名） 意識や知識の変化】

月経周期に合わせて仕事の調整を意識していますか



事前調査時に比べて
「どちらかといえば意識している」
が大幅に増加（6.3%→18.8%）

月経痛で生活や仕事に支障がある場合、これは病気だと思いますか。病気ではないと思いますか。

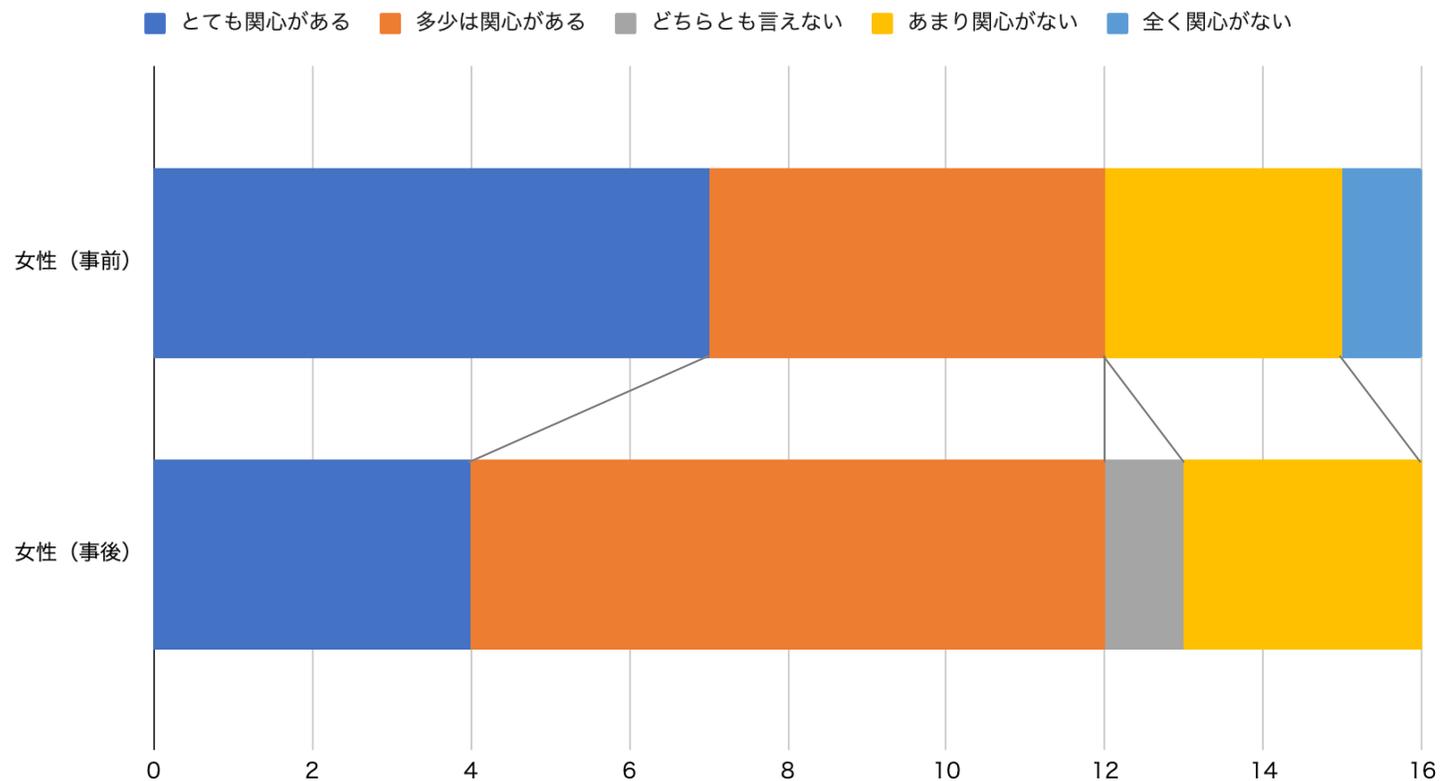


事前調査時に比べて「病気である」（正解）
が大幅に増加（25.0%→81.3%）

本事業の成果 事後アンケートでは

【その他の成果指標（女性：16名） 関心の変化】

妊活や不妊に関して、今のあなたの中でどのくらい関心がありますか

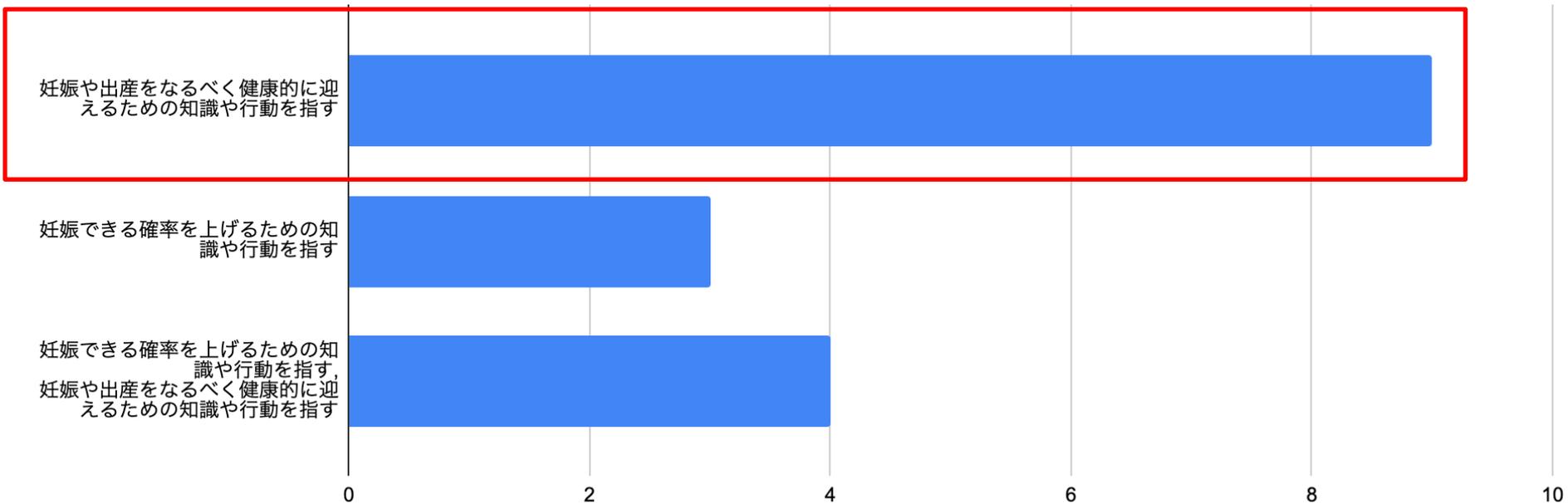


事前調査時に比べて「とても関心がある」の回答者が減り、「多少は関心がある」の回答者が増えた

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

【その他の成果指標（女性：16名） 意識や知識の変化】

プレコンセプションケアについて、正しいと思う選択肢を全て選んでください

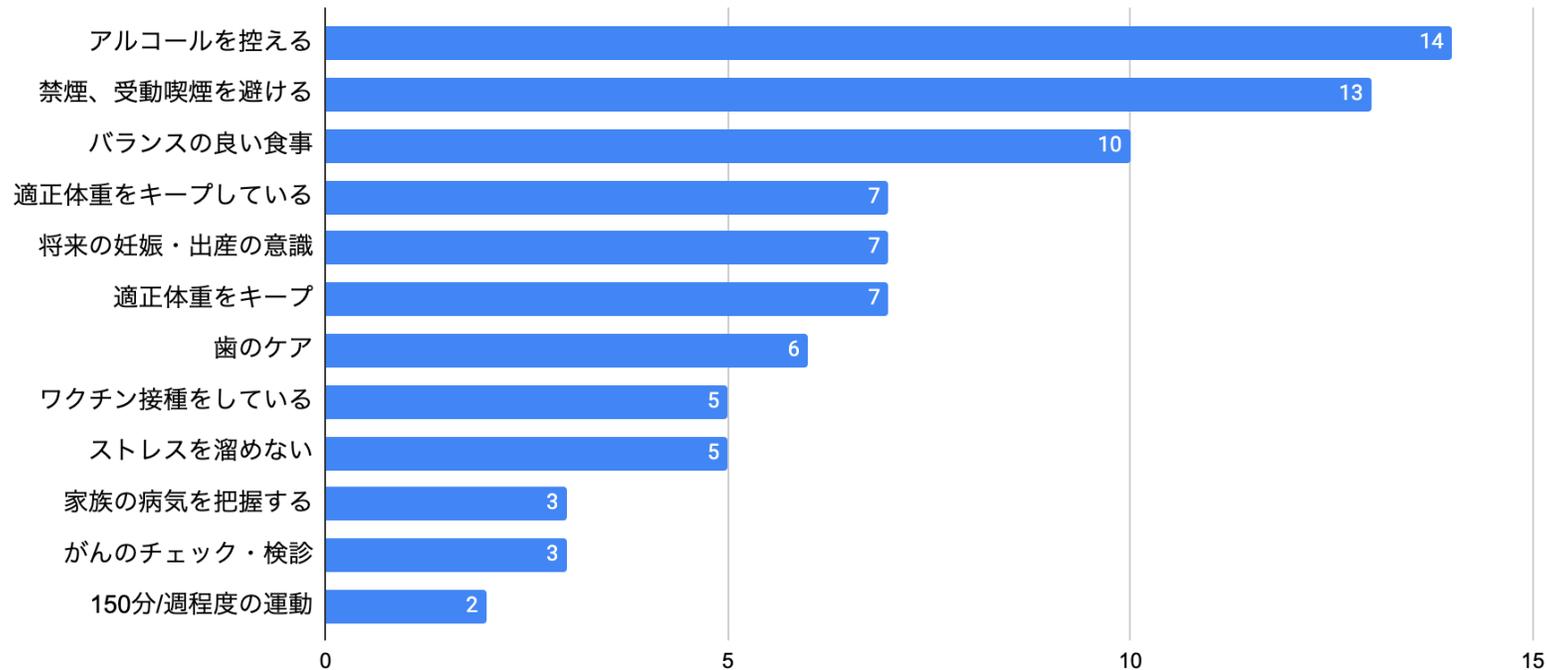


事前調査時に比べて正しい選択肢（赤枠）を選んだ参加者が増加（37.5%→56.3%）

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

【その他の成果指標（女性：16名） 行動の変化】

いま日頃から意識していることを全て選んでください

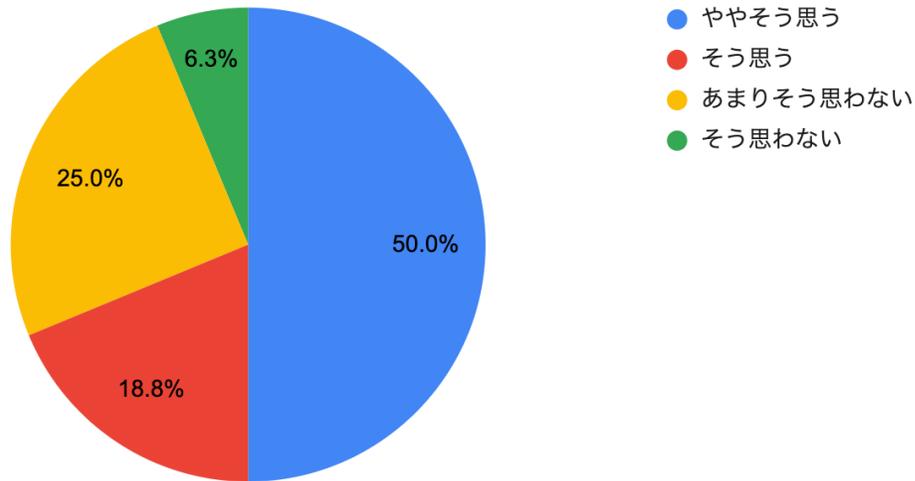


事前調査時に比べて選択された項目の
合計数が増加（73→82個）

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

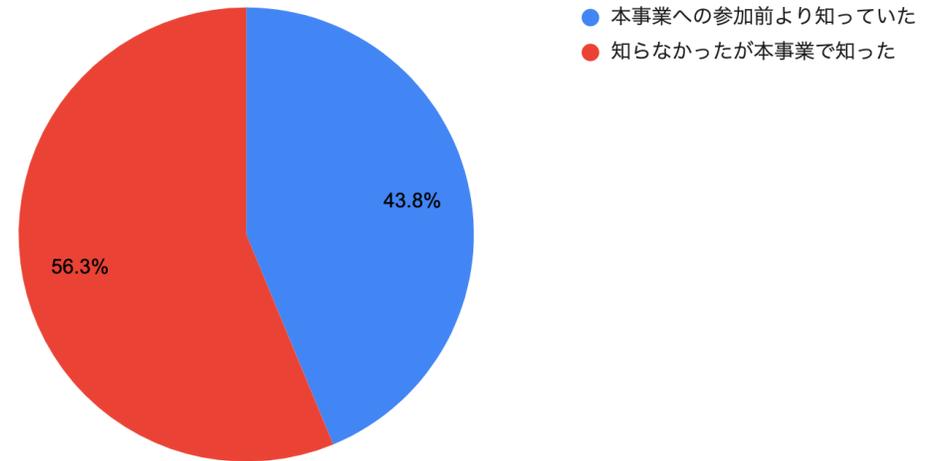
【その他の成果指標（女性：16名） 意識や知識の変化】

事業開始時点と比べ、HPVワクチン（子宮頸がん予防のワクチン）についての知識が深まったと思いますか？



参加者の68.8%が事前調査時に比べて「知識が深まった」と回答

1997年4月2日～2006年4月1日生まれの女性にはHPVワクチンのキャッチアップ接種という機会が設けられました。対象年齢の間に接種を逃した方も無料で接種が受けられます。このことを知っていましたか？

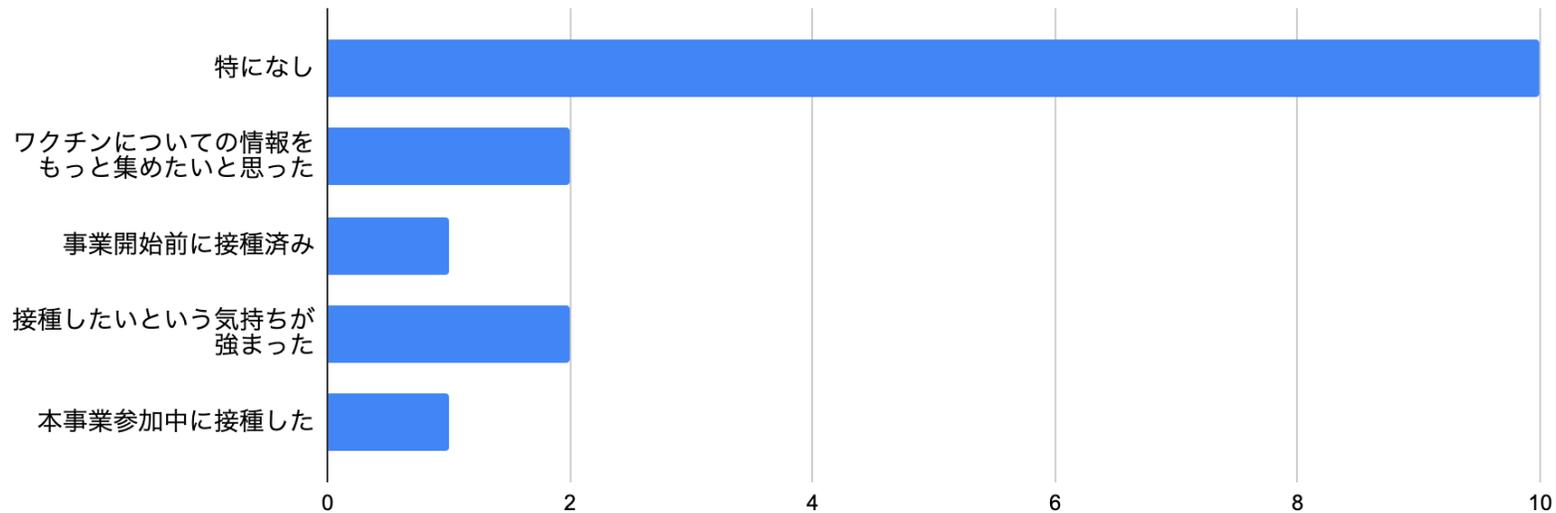


参加者のうち56.3%がワクチンに関する最近の動向についての知識を得られた

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

【その他の成果指標（女性：16名） 意識や行動の変化】

事業開始時点と比べ、HPVワクチンの接種について意識や行動が変わりましたか？（複数選択可）

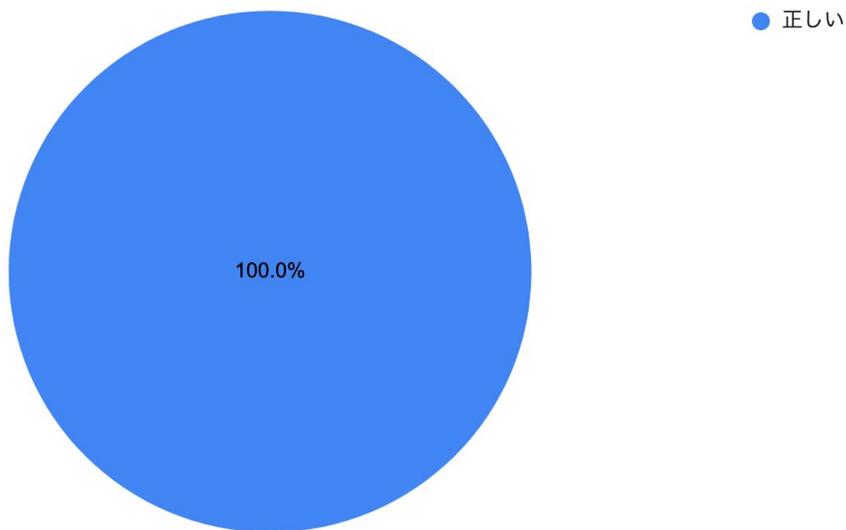


参加者のうち31.3%に意識が行動の変化が生じた
（事業期間中にワクチンを接種した参加者もいた）

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

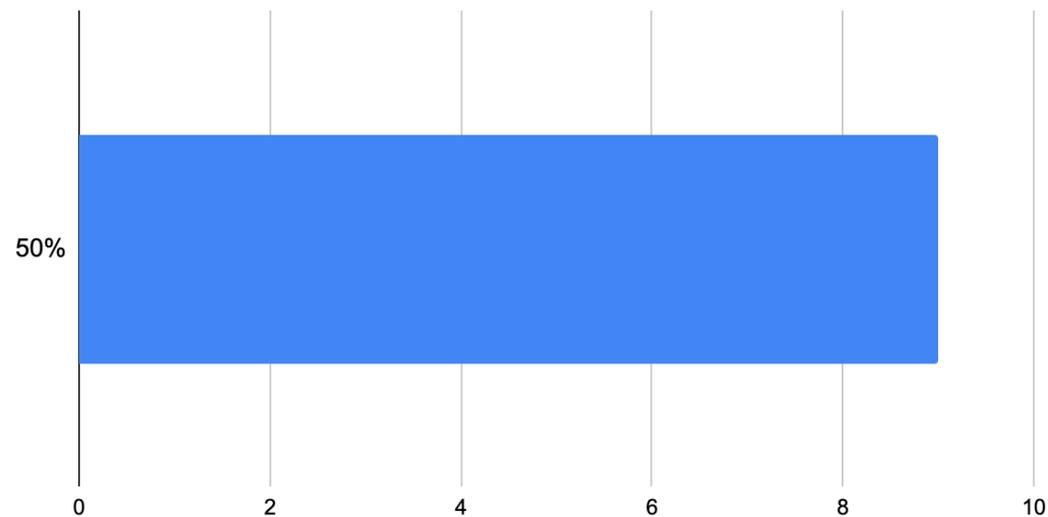
【その他の成果指標（男性：9名） 知識の変化】

女性の7-8割が月経痛を抱えています、「生活や仕事に支障が出るような月経痛」は「月経困難症」という疾患である。これは正しいと思いますか？



事前調査時に比べて「正しい」（正解）と回答した参加者が100%に（77.8%→100%）

不妊の検査を行ったカップルのうち、男性側の不妊の原因が見つかる頻度はどのくらいだと思いますか？

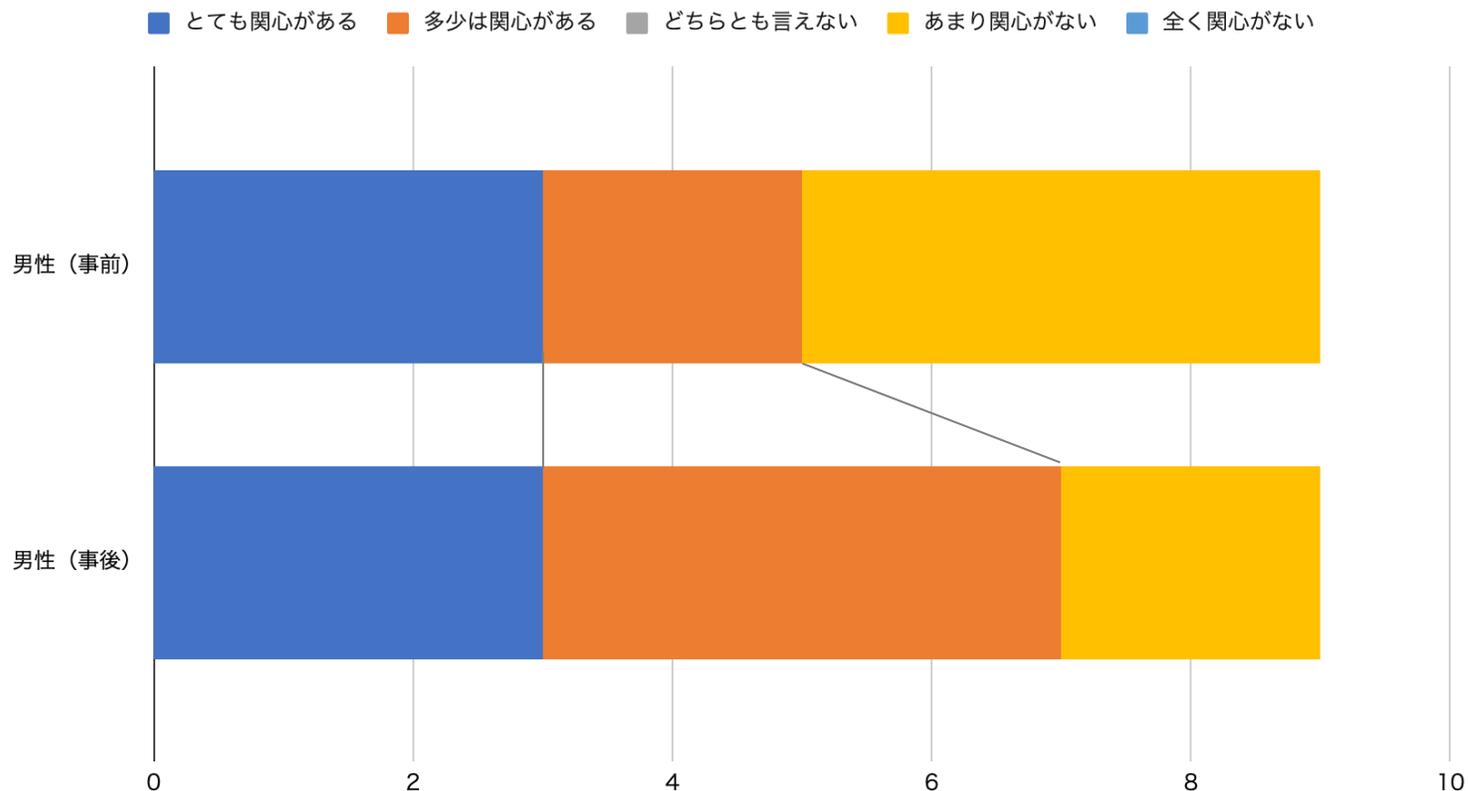


事前調査時に比べて「50%」（正解）と回答した参加者が100%に（77.8%→100%）

本事業の成果 事後アンケートでは

【その他の成果指標（男性：9名） 関心の変化】

妊活や不妊に関して、今のあなたの中でどのくらい関心がありますか

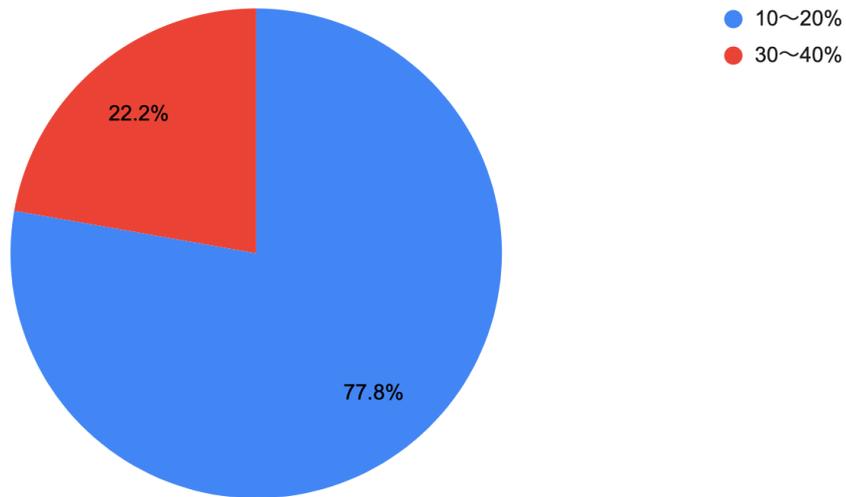


事前調査時に比べて「とても関心がある」「多少は関心がある」と回答した参加者が増加した（55.6%→77.8%）

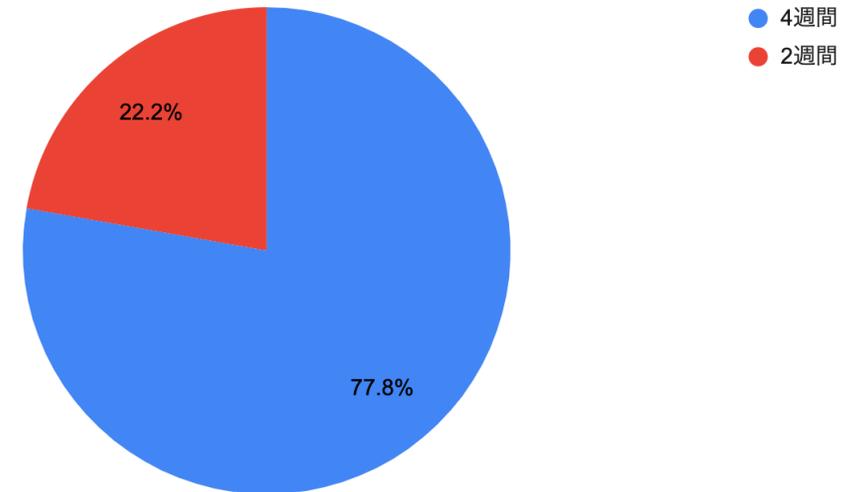
本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

【その他の成果指標（男性：9名） 知識の変化】

産後しばらくは、からだの負担に加えて睡眠不足等の影響が重なりやすい時期です。出産後に「産後うつ病」となってしまう女性の割合はどのくらいだと思いますか？



「出生時育児休業（産後パパ育休）」は、男性社員に子どもが生まれた場合に休業することが可能な制度ですが、最大で何週間休業できると思いますか？



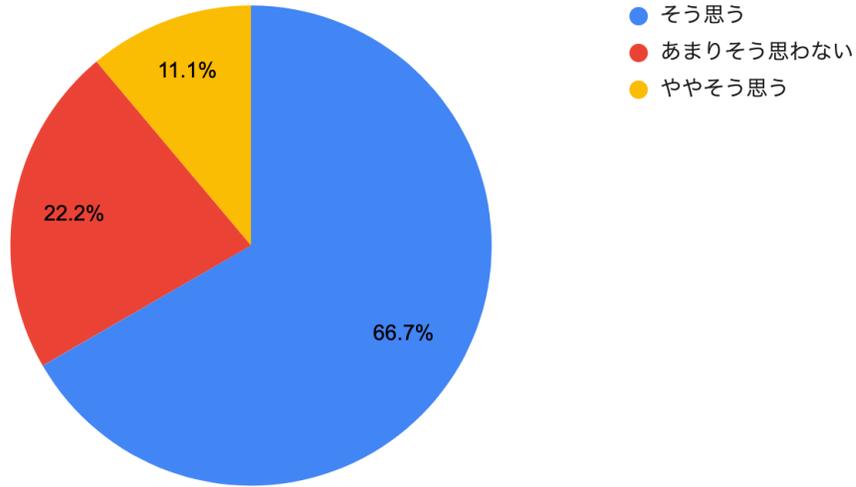
事前調査時に比べて「10~20%」（正解）と回答した参加者が大幅に増加（33.3%→77.8%）

事前調査時に比べて「4週間」（正解）と回答した参加者が大幅に増加（44.4%→77.8%）

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

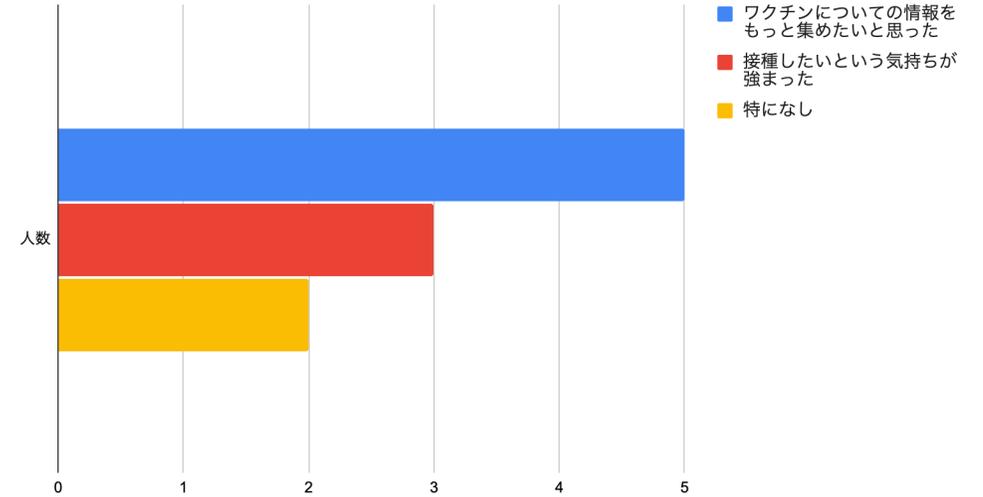
【その他の成果指標（男性：9名） 意識や知識の変化】

事業開始時点と比べ、HPVワクチン（子宮頸がん予防のワクチン）についての知識が深まったと思いますか？



参加者の77.8%が事前調査時に比べて「知識が深まった」と回答

事業開始時点と比べ、HPVワクチンの接種について意識や行動が変わりましたか？（複数選択可）

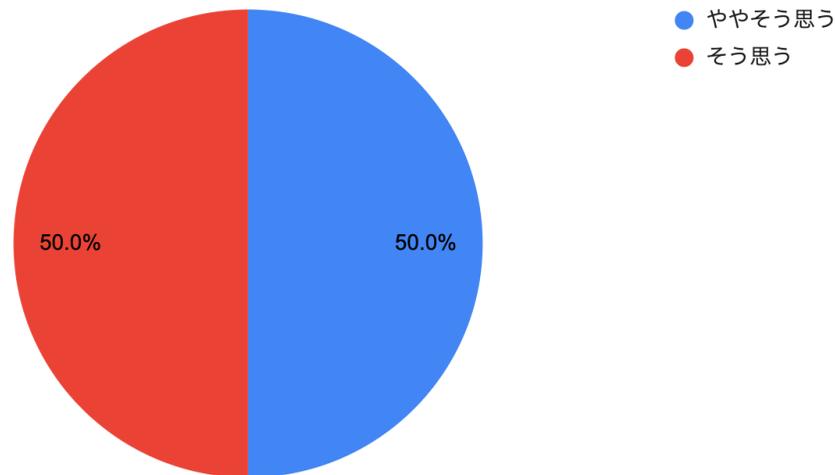


参加者のうち55.6%がさらなる情報収集に、33.3%が接種意向について前向きに回答した。

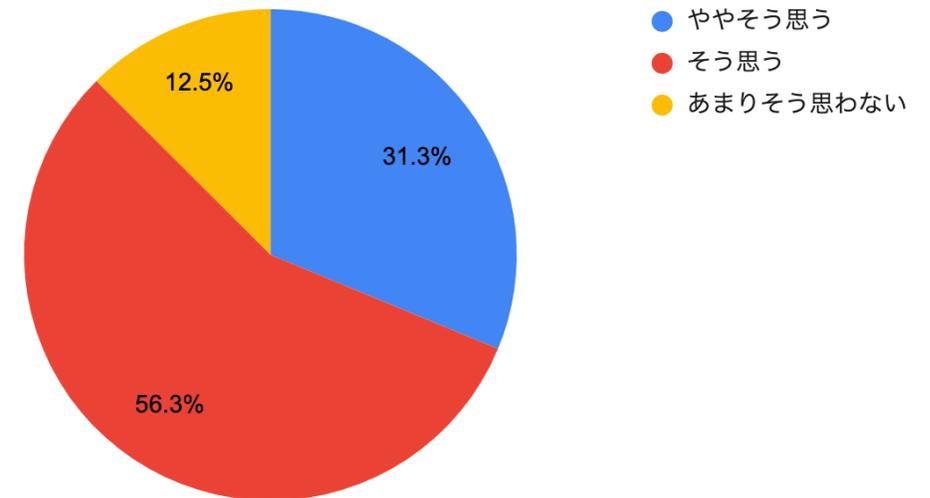
本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

【本プログラムについて（女性：16名）】

今回のeラーニングプログラム（eラーニング+オンライン相談窓口の自由利用）を、社会人になって比較的早い時期に受けることはご自身にとって役立つと思いますか？



eラーニングツールで新たな知識や発見を得ることができたと思いますか？



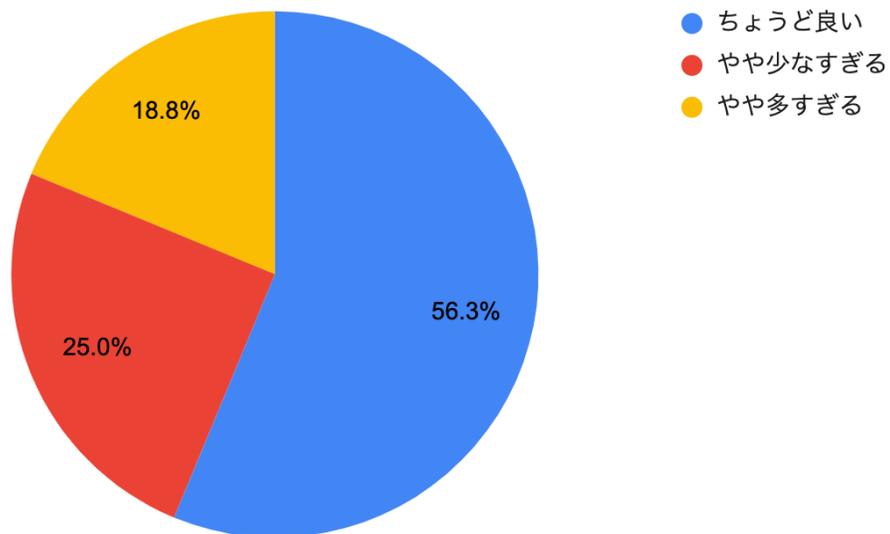
参加者全員が「社会人になって早期に本プログラムを受けることは役立つと思う」と回答した

参加者の87.5%が「eラーニングで新たな知識や発見を得られた」と回答した

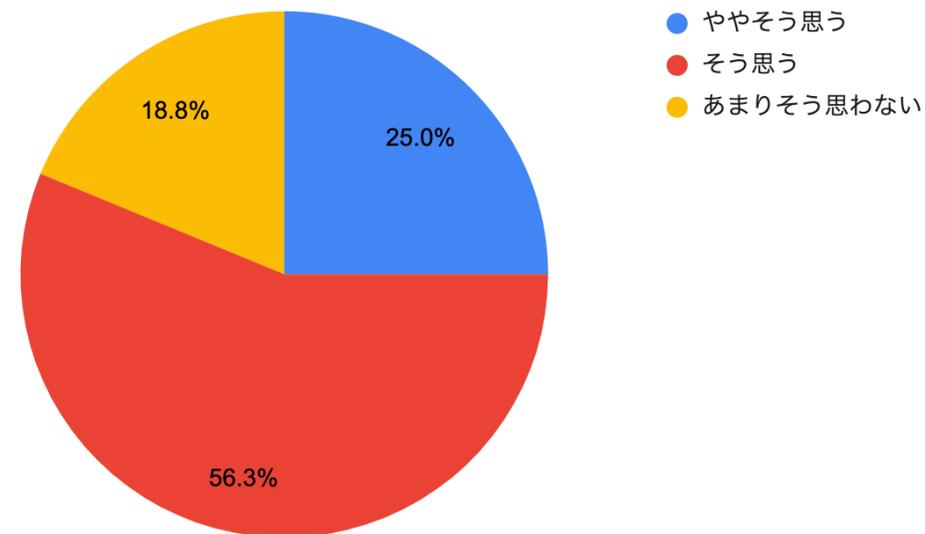
本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

【本プログラムについて（女性：16名）】

eラーニングツールの設問数や回答文の量は適切でしたか？



eラーニングツールは使いやすかったですか？



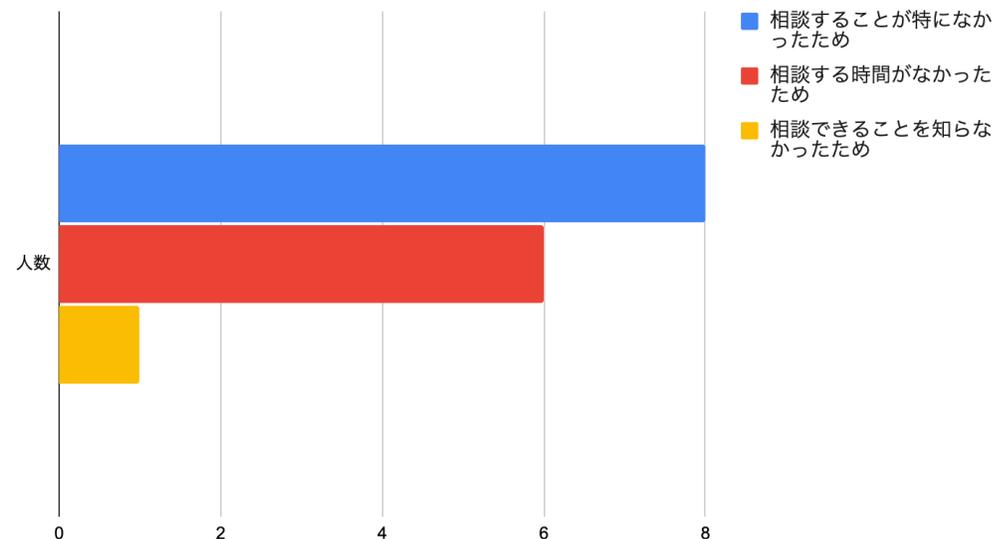
参加者のうち56.3%は「eラーニングの設問数や回答文の量はちょうど良い」と回答したが、感想には個人差が認められた

参加者の81.2%が「eラーニングツールは使いやすかった」と回答した

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

【本プログラムについて（女性：16名）】

オンライン相談を利用しなかった理由を教えてください。（複数選択可）



* オンライン相談を利用しなかった15名が回答

オンライン相談を利用しなかった最多の理由は「相談することが特になかった」だったが、「相談できることを知らなかった」という参加者も1名いた

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

【本プログラムについて よかった点（自由記載）（女性）】

- クイズ形式は気軽に答えられて便利だった。
- スマホから手軽に参加でき、スマホでもわかりやすい画面構成だった。
- eラーニングが改めて自分自身のこと、今後について考えるきっかけとなった。
- 必ずしも定期的な検査が必要ではない病気があることを知れたことは、婦人科疾患に関して必要以上に神経質にならなくてもよいと思えたので少し気持ちが楽になりました。

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

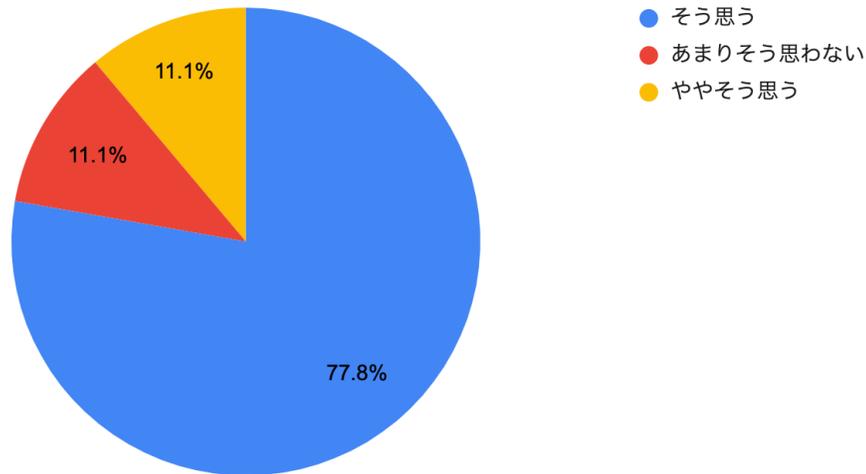
【本プログラムについて 改善してほしい点（自由記載）（女性）】

- eラーニングと聞くと動画を見るのかと勘違いしていた。
- もう少し様々なことを学びたかった。
- 「ラーニング」と呼べるほどの量ではなかったと思うので、より詳しい内容を学べるような問題や量にしてほしい。
- 2回目に、前回の自分の回答との比較ができないのが残念。マイページみたいなものが欲しい。
- 回答が読みづらいように感じました。既に知っている情報も多かったように感じています。

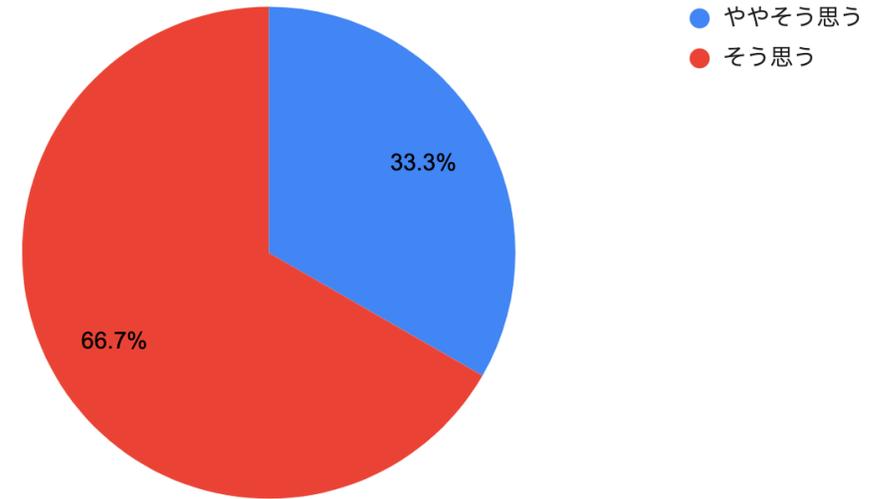
本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

【本プログラムについて（男性：9名）】

今回のeラーニングプログラム（eラーニング+オンライン相談窓口の自由利用）を、社会人になって比較的早い時期に受けることはご自身にとって役立つと思いますか？



eラーニングツールで新たな知識や発見を得ることができましたか？



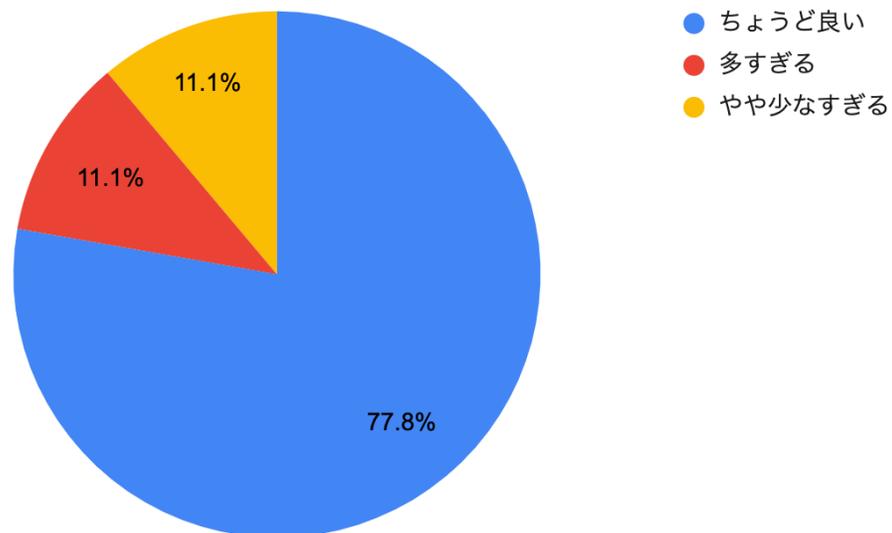
参加者の88.9%が「社会人になって早期に本プログラムを受けることは役立つと思う」と回答した

参加者全員が「eラーニングで新たな知識や発見を得られた」と回答した

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

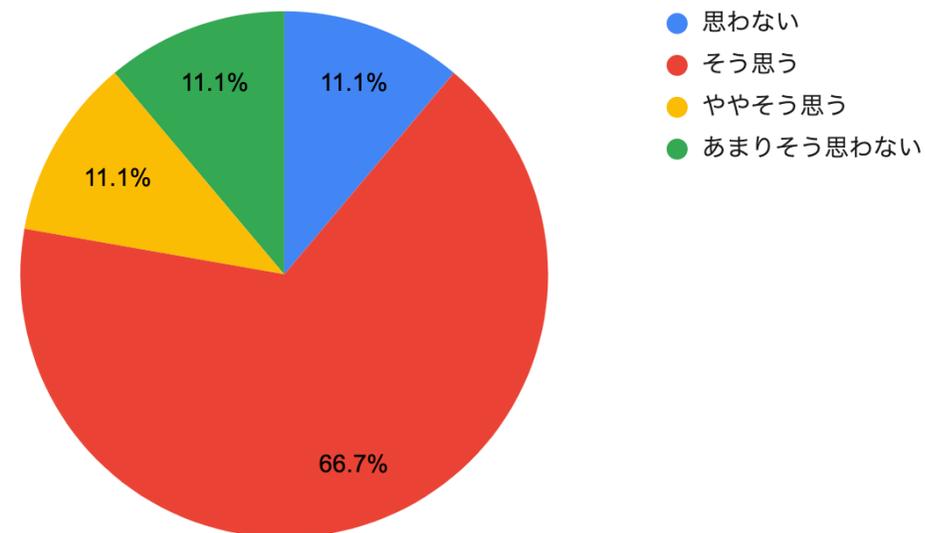
【本プログラムについて（男性：9名）】

eラーニングツールの設問数や回答文の量は適切でしたか？



参加者のうち77.8%が「eラーニングの設問数や回答文の量はちょうど良い」と回答した

eラーニングツールは使いやすかったですか？

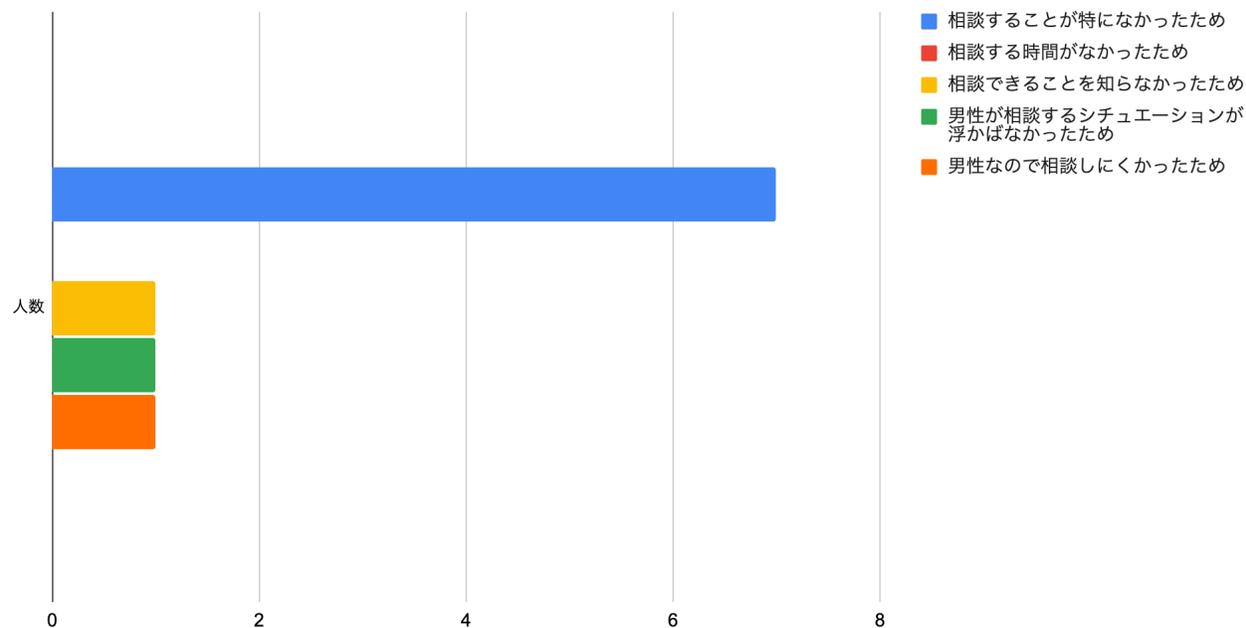


参加者の77.8%が「eラーニングツールは使いやすかった」と回答した

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

【本プログラムについて（男性：9名）】

オンライン相談を利用しなかった理由を教えてください。（複数選択可）



* オンライン相談を利用しなかった9名が回答

オンライン相談を利用しなかった最多の理由は「相談することが特になかった」だったが、「男性なので相談しにくかった」という参加者もいた

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

【本プログラムについて よかった点（自由記載）（男性）】

- クイズ形式で進められたため、情報のインプットとしては最適な形式であったと考える
- 最初に問題があり、回答を読み返すタイプは頭に入ってきやすかった。分からないところが明確になった。
- 自分の理解度はどの程度なのか知ることができた。
- 質問を通して、自分がどのくらい知識が欠けているかというのが明確になりました。会社の人との間で話題にするのは難しいものの、プライベートで身近な相手であれば会話のきっかけにすることが出来ると思います。
- eラーニングを受講することで、男性かつこの年の自分は普段考えないテーマに関する知識に触れることができた。
- 新しい知識をインプットできとても参考になった。普段生活する中では知りえない知識だと感じた。

本事業の成果 事前・事後アンケートの分析結果

【本プログラムについて 改善してほしい点（自由記載）（男性）】

- 動画にして欲しい。
- 正解を探すものと、「説明できる/できない」のような所感を伝えるものが混ざっていたのがわかりにくかった。また、正解かどうかは別の色にするなどして、何を回答ページで理解すれば良いのかがもう少し鮮明にわかるようになって欲しかった。
- あと何問か分かれば、やってる間も安心して取り組めると思いました。
- 女性の健康課題について、大きなトレンドのみしか学習できなかったように感じる。実際に女性が経験する健康課題についてのエピソードや、もっとリアルな声を知ることができれば、女性に対する知識的・感情的な部分で理解できたと考える。
- 今回の結果について、自分の成績が分かるといいと感じた。他の人よりも成績が劣っているならば、課題感に感じると思う。

本事業の成果 デプスインタビューでのコメント

調査目的：eラーニングプログラムの内容や実装に関する課題や改善点を明らかにする

調査課題：アンケートフォームでは取得できない定性的な声を把握する

実施時期：2月14日～2月20日

実施人数：計9人（女性5名、男性4名。事後アンケート回答者から募集した。）

【本事業に参加しようと思った理由】

- ・社内で周知があったので協力した
- ・担当者に声をかけられ、やらない理由も特になかったから
- ・自分の知識確認&向上をしたかったから
- ・自分には知識が足りないと思っていたため、良い機会だと思ったから

【社内での周知方法について】

- ・全体へのメールののちに、**新入社員向け研修時にリマインドがあった**ため思い出すことができた
- ・社内メールや掲示板では様々な情報が飛び交っているので、自由参加のものは目に留まりづらい
- ・**4月の若手研修**等に組み込まれば、参加率も上がるのでは

本事業の成果 デプスインタビューでのコメント

【eラーニングについて】

<アクセス方法について（WEB版とLINE版の2種類を用意）>

- ・社内メールで周知されたため、**個人LINEは使いづらくWEB版を利用した**
- ・**LINEからアクセスする研修は他にないので目新しく、特に抵抗なく使えた**

<表示方法について>

- ・**テキストベース**であることで、**自分のペースで進められる**から良かった
- ・社内で行う他のeラーニングは動画のものが多く、テキストより**動画の方が定着しやすい**と思った

<設問について>

- ・セクションごとに分かれているので、**飽きずに進めることができた**
- ・**ライトな参加者**に対しては、今回のような**クイズ形式が合っている**と感じた

<回答について>

- ・適度な解説量、簡潔な解説で良かった
- ・**全体の参加者の正答率との比較、セクション毎の自分の弱点**などが視覚的に分かると面白かった
- ・マイページなどから、1回目のeラーニング結果など**過去の履歴**が見れると自分でも把握しやすい
- ・受講者のレイヤーによって求める要素は違って来るだろうなと思った（疾患等の知識、該当者・部下に対しての対応、社内の制度設計など）

本事業の成果 デプスインタビューでのコメント

【オンライン相談について】

①利用した方

<利用した理由>

- ・ **通院中の症状や状況**について、他の医師からのコメントを聞きたかったため

<相談を使ってみて思ったこと>

- ・ もともと医師は冷たい印象もあったが、**返信の文章から優しさが伝わって良かった**
- ・ 会社の健康診断だと婦人科がオプションで有料だったりするので、こうしたオンライン相談を**気軽に使える**ようになってほしい

②利用しなかった方

<利用しなかった理由>

- ・ **特に聞きたいことがなかった**から
- ・ eラーニング終了直後の相談への誘導はあったが、いったんページを閉じたあとの相談利用はハードルが高く感じたから
- ・ 自分が男性であることで、産婦人科医への相談はハードルが高く感じたから

<改善点や期待したいこと>

- ・ ビデオ会議ツールではなく**LINEやメッセージで気軽にできる**ことがより伝わると良かった
- ・ 年齢が上がった時には色々質問したいことも出てくるのかなと思った。**福利厚生**で使いたい。

本事業の成果 デプスインタビューでのコメント

【本事業で得られたこと】

- ・ 社内に女性社員が多く、産休中や時短勤務の女性もいるので、**周りがどのようなことで困っているのかなどを知る良い機会**となった。（男性）
- ・ もともと女性の健康課題に関しては知識がある方だと思っていたが、eラーニングでは知らない情報も適度に含まれており、**新しい学び**があって良かった。（女性）
- ・ 同じような内容を、**今後入社する後輩にも学んでほしい**と思った。（男性）
- ・ 若手社員だけが今回のような知識を得ても、上司や会社全体の理解が深まらないと働きやすさには繋がらないと思う。**上の世代にも同様に知ってもらう機会が必要**だと思った。（女性）
- ・ eラーニングは、オンライン相談を使ってみるきっかけになると思う。（男性）

本事業の成果 得られた結果への考察

【共通指標について】

- 共通指標①について、絶対的・相対的プレゼンティズムが参加者のうち50～56.3%で改善が認められた。また、共通指標②について、7つ全ての指標が参加者のうち18.8～37.5%で改善し、特に「健康課題がキャリアに及ぼす影響度の認知」の改善が相対的に大きかった。
- まず、参加者全体で広く改善傾向にあったこと、そして全員がeラーニングを実施したことから、共通指標において得られた改善・向上に本プログラムが一定の寄与を果たしたものと考えられる。加えて、「健康課題がキャリアに及ぼす影響度の認知」の改善が相対的に大きかったことから、主体的に学ぶ形式で専門性の高い情報を取得できるコンテンツにより「単なる疾患等への知識を持つだけでなく今後のキャリアと併せて起こりうる課題を考える」ことを促せたものと推察した。
- また、eラーニング実施回数（1回vs2回）による比較分析では、「相対的プレゼンティズムの改善が認められた参加者の割合は2回実施者の方が高かった」、「2回実施者では共通指標②で改善した人の割合が0%の項目がなかった」ことから、eラーニングを1回だけではなく、2回反復して実施することによって学習効果をより高められる可能性が示唆された。

本事業の成果 得られた結果への考察

【その他の成果指標について（女性参加者）】

- 意識・知識・関心の変化について、幅広い改善・向上が認められた。オンライン相談の利用はなかったものの、男性に向けて意識・知識・関心に重点を置いたeラーニングを主体的に実施することで、入社歴の浅い男性社員が女性の健康課題や、男性がすべきこと・できることなどを学習できたものと考えられた。
- また、一部の行動変容についても改善が認められた。自ら主体的に、困った症状等があった際に医療機関を受診する、疾病予防のためワクチン接種をする、などは若いうちからの健康作りに直結するものである。完全にオンラインで、かつ動画視聴とは異なり非常に短時間で完結できるeラーニングプログラムによって、こうした行動変容を促すことが期待できるということは、本事業における有益な知見だと言えるだろう。

本事業の成果 得られた結果への考察

【その他の成果指標について（男性参加者）】

- 意識・知識・関心の変化について、幅広い改善・向上が認められた。共通指標と同様に、主体的に学ぶ形式で専門性の高い情報を取得できるコンテンツによって、入社歴の浅い女性社員が吸収できるトピックが多くあったものと考えられた。
- また、一部の行動変容についても改善が認められた。自ら主体的に、困った症状等があった際に医療機関を受診する、疾病予防のためワクチン接種をする、などは若いうちからの健康作りに直結するものである。完全にオンラインで、かつ動画視聴とは異なり非常に短時間で完結できるeラーニングプログラムによって、こうした行動変容を促すことが期待できるということは、本事業における有益な知見だと言えるだろう。
- デプスインタビューでは「社内に女性社員がどのようなことで困っているのかなどを知る良い機会となった」「同じような内容を今後入社する後輩にも学んでほしいと思った」という声もあり、若いうちにこうした内容を学ぶ機会が得られることにポジティブな感想を持っている参加者が多く、男女ともに学ぶことの意義を再確認できた。

本事業の成果 得られた結果への考察

【本プログラムについて】

- 参加者のうち96% (24/25名)が「社会人になって早期に本プログラムを受けることは役立つと思う」と回答し、92% (23/25名)が「eラーニングで新たな知識や発見を得られた」と回答した。本プログラムの主な目的である「社会人になって早期に女性の健康課題について学ぶ機会を得ること」「女性の健康課題について新たな知識や発見を得ること」を達成できたと考えられ、本プログラムの有用性を確認できた。
- ただし、eラーニングツールの「設問数や回答文の量」や「使いやすさ」にはまだ改善の余地が大きいと感じた。また、自身の結果を振り返ったり他の実施者との比較ができたりするような機能がほしい、という声が複数名の参加者から寄せられた。こうしたeラーニングの機能面は、今回得られた知見を活かしてより良いものに改善していきたい。
- 今回、オンライン相談の利用者は女性2名 (8%)のみだった。利用しなかった理由の多くは「相談することが特になかった」だったが、「相談できることを知らなかった」「男性なので相談しにくかった」という声もあり、周知方法やユーザーインターフェイスに改善の余地があると考えられた。ただ、「eラーニングはオンライン相談を使ってみるきっかけになると思う」という声もあり、eラーニングと組み合わせることの有用性には期待が持てる結果となった。

本事業の課題① 参加団体募集の壁

- 対象参加者が若手社員限定であること
 - 高い介入効果を期待して5年目社員までに限定した
 - しかし事業参加可否にとって最大のハードルとなった
(一部のみ導入しにくい、他多数の研修を導入しており予定が組み込めない)
- 実施期間
 - 夏に参加団体募集、秋～冬で実施
 - 入社員の研修時期である春に実施したいという声も多かった
- Eラーニングツール開発と参加企業募集の同時進行
 - 実証事業開始とともにツール開発を併行
 - ツール作成期間の参加団体との打ち合わせでは完成形が見せられず

本事業の課題② 参加団体決定からの壁

- 参加団体に属する5年目までの対象者総数は約250名 → 最終参加者は47名のみ
 - 参加団体の担当部署経由での任意募集となったため、参加者募集に強く介入しにくかった
 - 若年層は、健康面において比較的困りごとがまだ少ない→興味を持ってもらえない
- 最終参加者47名 → 事後アンケート回答者は25名のみ
 - 事前アンケート、eラーニング（1or2回）、事後アンケートと、比較的短期間でやらなければならないステップが多かった
 - メールしか連絡手段がなく、案内やリマインドが迷惑メール等に振り分けられてしまった場合にはそれ以上の介入ができなかった

本事業の課題 より良い知見取得のために工夫したこと

- ✓ 参加団体募集を8月→12月まで延長し、より多くの企業に声をかけた
 - ・途中から開発中のeラーニングツール（デモ版）を供覧し、関心を持ってもらえるように
 - ・結果的に4企業の参加をいただけたが、スケジュールがかなりタイトになってしまった
- ✓ 対象者を社会人歴3年目→5年目に拡大した
 - ・参加者のバリエーションが生まれたが、結果的に分析への支障はなかった
- ✓ デプスインタビューへの協力者を募り、9名からヒアリングを実施した
 - ・アンケートフォームでは得られない定性的な声を多く取得できた
- ✓ 共通指標を「eラーニング実施回数」でグループ分けして比較分析した
 - ・本来は「eラーニング未実施者」との比較を予定していたが結果的に0人だった
 - ・最終的に4名と12名の比較となり、限定的な分析となった

今後の事業展開

【プログラム内容の拡充】

- Eラーニングツールの充実化（設問・回答のブラッシュアップ）
- Eラーニングツール結果参照画面の実装（反復した自己評価を可能に）
- オンライン相談へスムーズに繋がられるユーザーインターフェイスの実装

【対象範囲の拡大】

- 新入社員以外の層にも最適化した形でのプログラムを開発
→様々な年代で個別化した学びを得られる研修プログラムに

【正式なサービス化へ向けて】

- 2023年4月より本eラーニングプログラムを提供できる法人が決定済み
- 産婦人科・小児科オンラインを導入済み法人への試験的提供を検討していく